

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年1月15日(木)

《み旨ならば、私の願いは必ず聞き入れられます》

日が沈むと寒いですね、何よりもお体を大切にしてください。

今日の第一朗読(ヘブライ 3・7-14)を読むと、一つ思い出すのは、何故ユダヤ人がエジプトから目的地まで行くのに40年もかかったのかという事です。実際に行ってみますと、どんなにゆっくり行っても1年もかからない道のりです。しかし40年間かかりました。その40年かかった理由は、第一朗読の中で『彼らはいつも心は迷っており、私の道を認めなかった』その言葉にあると思います。結局私たちが40年、50年、60年信仰の生活をしていると言っても、もし私たちが正しい道 "あなたを条件無しに信じます" という心が無ければ、いつも惑わされ、迷い込んでしまうのが私たちの信仰の道ではないかと思えます。

私たちが選んだこの道、その目的の為に力を入れなかったらもったいないと思います。迷いがあるのは当然の事だと思いますが、その迷いを乗り越える心や態度が何よりも必要ではないかと思えます。

今日の福音(マルコ 1・40-45)に入りたいと思います。今日の福音の中で、イエス様に癒されたのはどのような人でしたか。"重い皮膚病の人" でした。今で言う "ライ病、ハンセン氏病" の事ですよね。2000年前、イエス様の時代の前から、その歴史の中でライ病は "神様の呪い" だと信じられて来ました。その "呪い" は先祖の罪によって、その償いとして受けなければならない一つの罰として人々が思っていました。ですから、自分にそのライ病、ハンセン氏病が発症したと分かった時から、その人々の人生は希望を失い、人間として認める事が出来ないというような存在になってしまったのです。

私たちがその時代で、そのような病気を得たとしましょう。どのような気持ちになったでしょう。生きるより死んだ方がましだと思ってしまうのではないのでしょうか。ですからこのような病気を持つ人は、他の人より強い願いあるのでしょうか。イエス様に跪いて「み旨ならば私が癒されます」という為には、彼が今まで体験した色々な痛みを考えなければ、黙想しなければ、その本当の意味を分かりません。たぶんイエス様が聖霊の力を持っている人だという噂を聞いて、どうにかイエス様の元にたどり着き跪いたのでしょう。そして願いました。「あなたが癒してくれなかったら、私は本当に死んだ方がいいと思います」という気持ちで願い出たのでしょう。そして一言も言わずにイエス様はすぐ返事をします。イエス様はこの人を哀れみ「清くなれ」と言われました。強い願い、そしてその願いをみ旨が分かってくれたら、その願いが必ず叶えられると信じる事、これが信仰の模範答案ではないでしょうか。この願いは叶えられてもいいし、願いが聞き入れられなくてもいいという様な生ぬるく考えている願いだったら、それは何の意味も無い事です。

ミサの前に皆様に "意向" について思い出して下さいと申し上げました。その意向について、"何故私は望んでいるのか、これは望まなければならないものなのか、この望みが正しいのか" を本当に真剣に考える事が大事だと言う事、その大切さを皆様に悟らせたかったのです。さあ、皆様、私たちが何かを願う時、特にイエス様に願う時、心を込めて願いましょう。してもいい、しなくてもいいというものでは無く、「本当に私にはこれが必要です。あなたのみ旨に叶ったら聞き入れて下さい」。その様なその願いは相手に対してものすごい信頼感を持っている証拠です。相手に信頼感を持たなければ懇切に願う事は出来ないのです。皆様、何か願う時に、まずこの願いが正しいかを考えてみましょう。そしてそれが正しいと思ったら懇切に願いましょう。それが何よりも必要な願い方だと思います。

最後に、イエス様は癒してから『誰にも言わないで、祭司の所に行って体を見せて、捧げものをしなさい』とおっしゃいました。『しかし彼はみんなに言い広めた』と書いてあります。何故彼は言い

広めたのでしょうか。訳があります。あまりにも懇切な願い、そしてその願いが叶えられたので言わずにはいられなかったのです。今まで人間として認められなかったのです。しかし人間として認められるその恵みを頂いたのです。神様が『だまっていなさい』とおっしゃっても、私は叫ばなければならない、という様な気持ちだったのでしょう。

皆様にも信仰的に大きな喜びを感じた事が多分あったでしょう。皆様はどの様に現したのでしょうか。これは易しく言いますと "述べ伝える" 事です。私が体験した事、その喜び。その喜びを伝える事です。それを伝えなければいけない事だと思います。まず、家族から始めましょう。もし隣人に悩んでいる人や求める人がいれば、その人の為に祈りましょう。そして近づく方法を神様に求めて下さい。必ず聞いて下さいます。機会が与えられます。機会が与えられたら皆様の体験を話して下さい。これが福音です。私たちはあまりにも消極的な形で自分の信仰を守ろうとしているのではないかと思います。違います。私たちは両面を見なければなりません。一つは自分の内的なもの、そして二つめは外です。関わりです。共同体、そして共同体を超えて色々な人々に、福音を知らない人々に述べ伝えなければならないという使命を持っている事を意識しなければならないと思います。

皆様、強く願う時に叶えられます。強い気持ちで私たちの心が燃やされたら、正しい道から外される危険は無いと思います。

ありがとうございました。